

浜松での取り組み ～ボート部の週末クラブ化～

浜松ボートクラブ佐鳴会

鈴木 政晴



ボートが抱える問題点

➤ 環境 ……物的・人的な環境が必要

- 自然環境
- 安全確保

➤ 経済面 ……莫大な費用がかかる

- 艇庫、艇、オール
- 購入費用、保管料、遠征費

➤ 指導者 ……常駐する指導者が必要

- 常に湖上で安全を見届けられる
- 技術指導ができる

中学校ボート部とクラブ

	中学校ボート部	クラブ
弱み	<ul style="list-style-type: none">・学校五日制による週末部活動の規制・ボートを専門とする指導者不足	<ul style="list-style-type: none">・艇、オール不足
強み	<ul style="list-style-type: none">・艇、オールを保有	<ul style="list-style-type: none">・専門性、技術力を持つ

中学ボート部の週末クラブ化。

クラブ化によるメリット

	中学校ボート部	クラブ
効果	<ul style="list-style-type: none">・週末の活動に制限がなくなる・専門の指導者が確保できる・保管料などを一部負担される・進学後もボートを継続できる	<ul style="list-style-type: none">・艇、オールを借りられる・会費を活動費に充てる <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">◎ボート教室の充実◎教室生が中学ボート部へ加入◎中学ボート部卒業生がクラブ加入

具体的な効果

➤ 指導者

- 技術指導・安全確保・道具の管理
→ 常に専門性を持った指導者がいる

➤ 経済面

- 外部の補助金が得やすくなる
→ モーターボート、救命具、オールなど購入

➤ 活動内容

- 遠征、合宿などを学校外の活動として

学校部活の限界を解消できる

補助金の事例

- マリンスポーツ財団 ¥300,000／回
- 佐鳴湖 水フォーラム ¥150,000／回
- 信金地域スポーツ ¥50,000／年
- 中部ボート連盟 普及活動 ¥40,000／年
- 浜松市体育協会 ¥25,000／年
- ・モーターボート(救命艇) 寄付

※これらには小学生のボート教室の補助金も含む

課題

➤ 指導者

- ボランティアでの活動である

➤ 経済面

- 保護者が学校とクラブの二重の経済負担

➤ 活動内容

- けが・事故時の責任が生じる

選手・保護者を納得させられる活動で

その他の要因

- **中学ボートは中体連 非加盟**
 - クラブ共存の団体なので自由度が高い
- **小学生のボート教室と合わせた活動**
 - 参加費無料の大会が多い
 - ボート教室への補助金を有効活用
- **部活顧問＝クラブ員である**
 - 部活とクラブの両者の強み、弱みを熟知
 - 保護者への信頼が厚い



これからのスポーツ指導

➤ 学校(教員)が持つ指導力

- 何歳で何ができるのか(子どもの実態を知る)
- 褒める場面と叱る場面の使い分け
- 言葉のかけ方と話し方

↓ ↑ **学びあう関係**

➤ クラブ(競技者)が持つ指導力

- ボート競技の楽しさと難しさ、大切なこと
- 技術面、精神面の鍛錬の方法